



かれんと

No.34
2009.3.25

Current:カレント
時代の流れあるいは
新しい潮流

夢の実現に向けて、働く現場は、今

時代は流れ 変わりました。

かつては「これは男の仕事」「これは女の仕事」と

線引きされ、望んでもスタートラインにさえ

立てなかった時代もありました。

今では、それぞれの夢を抱き、その実現のために

歩きだしています。

そこには「男・女」を超えた道があるから…



主な内容

- ・夢の実現に向けて
—明日への挑戦—
- ・一級建築士をめざして
- ・起業をかなえて
- ・子どもと遊ぶことが好き
- ・人と人の潤滑油として
- ・県次世代人材づくり事業に参加
- ・男女共同参画社会づくり実行委員会事業
- ・お気に入りBook
- ・ひとくちメモ
- ・編集後記

※「かれんと」は、ボランティア編集員が担当し、作成しています。



安中さんは、小さい時から絵を描くことが好きでしたが、中学に入った頃からは、絵より家の図面を描くことに熱中したそうです。

安中さんは、小さい時から絵を描くことが好きでしたが、中学に入った頃からは、絵より家の図面を描くことに熱中したそうです。



▲ベビーマッサージ教室にて

かと不安で、イベントなどに出向いてPR活動を続けるうちに一般のお客さんも

増え、最近では「ここに来るとほっとする」というリピーターもいます。また、新人看護師研修やベビーマッサージ教室、リフレ&アロマ講座の講師として出張の仕事も増えてきました。

明日への挑戦

一級建築士を目指して

安中 美帆さん

(西鹿沼町在住)

鹿沼共同高等産業技術学校(※1)建築設計科1年生の安中さんは、きれいに伸びた背筋と笑顔の女性ですが、はきはきとした口調に清々しさを感じました。

すでに、二級建築士の資格を持ち家業の手伝いをしていいますが、この学校で学ぶきっかけとなったのは、諸先生からの勧めと、仕事をしながら資格取得の勉強が出来ると思ったからだそうです。

かつて大工という職業は、官名を「大匠」といい、男性の職業であったといわれています。

この学校は設立以来42年になり、平成2年に初めて女性が木造建築科に入学してきました。以来、それぞれの科にも女性が入学するようになり、現在75人中9人在籍しています。特に建築設計科に多く17人中7人が女性です。



▲建築設計科授業風景

「今後の夢は一級建築士の資格を取ることです。より良い設

計をするにあたっては、特に女性の希望を第一に考え、そこに住む人にとって最高の家造りをすることを目指しています。そのためはまだまだ勉強不足ですが、一つの仕事を成し終えた時、嬉しそうに笑顔が見られると、また頑張ろうという意欲がわいてきます」と話す安中さんの目は明るく輝いていました。

起業をかなえて

福田 勝枝さん

(白桑田在住)

女性創業塾(※2)を終了し現在ルピナス(※3)の会長を務める福田さんを取材しました。

結婚、子育てをしながらも会社勤めを続け、社会とのつながりを持ち続けたいと思っていました。

忙しい毎日に「職場にも癒しのコーナーがあるといいな」と感じはじめ、退職をきっかけにリフレソロジーとアロマセラピーの学校に通い資格を取得。平成18年、まちなか交流プラザ内のチャレンジショップに開店。1年後、スクールで出会った仲間と3人共同で、宇都宮にアロマ&リフレ&雑貨の店をOPEN。出店する際に「素人に何ができるの?」と家族の反対や心配もありましたが、各自資金を持ち寄り、一大決心で始めました。



開店当初は来客も少なくやっつけいけるのかと不安で、イベントなどに出向いてPR活動を続けるうちに一般のお客さんも

にリフレアロマを知っていただき、活動の場をもっと広げていきたい」と話されていました。次は「森林セラピスト」資格取得を目指し勉強中とのこと。いきいきと夢に向かって話をする笑顔が印象的でした。

※2 女性創業塾とは

独立開業を志す学生・OL・主婦・創業まもない女性経営者を対象に鹿沼商工会議所が開催する講座

※3 ルピナスとは

女性創業塾の卒業生により発足した会。女性の自立を目指し交流の場を提供している。

子どもと遊ぶことが好き

青木伴文さん
(清滝寺幼稚園教諭)

自然豊かな山々に囲まれた口粟野に幼稚園があります。取材に訪れたとき、青木さんは元氣いっぱいの園児に目を配りながら庭の掃除をしていました。

送迎車で園児を家に送り届け、ほっとした表情の青木さんに話を伺いました。



▲つきぐみの園児たち

「高校の頃から保育関係の仕事我希望していました。子どもたちと一緒に遊ぶことが好きなんです」
自分が卒園した清滝寺幼稚園で実習し、園長先生からの励ましも



あり、この先生になるぞと思っただけです。

「当時、男性が幼稚園教諭になりたくても受け入れてくれる養成校や勤務先は限られていたんです。今でも研修に行くとなんか一人のこともありません。でも好きでやっていることだから、仕事でのストレスは感じません。ときには男性ならではの力仕事もあるし…」

現在は年中(つきぐみ12人)の担任ですが、子どもたちにとって楽しい保育を目標に、勉強の毎日です。特にピアノは今でもレッスンに通っているそうです。

「今後もこの仕事を続けていきたいです。将来子どもたちの中から、幼稚園の男の先生が生まれてくれたらいいなと思っています」
男女の枠を超えて飛び込んだ保育の現場で、のびのびとした子どもたちを育てるような幼児教育に取り組んでほしいと思います。

人と人の潤滑油として

上都賀総合病院看護師

現在、上都賀総合病院には26人の男性看護師が勤務しています。全体に占める割合は約10%で、まだまだ圧倒的に女性の多い職場です。

今回は、木村公彦さん(37) 高山健志さん(31) 荒川聡さん(23)の3人に話を伺いました。

3人とも姉が医療関係の仕事をしてきたこともあり、男性が看護師になることにあまり抵抗はなかったと言います。子どもの頃の入院経験や資格を取得したいという思いが、看護師への道を選ぶきっかけになったとのこと。

「同僚の女性看護師を身近で見ていると、女性の強さや技術の高さを実感することも多いです」



▲ナースステーションで

「男性ということで遠慮してしまう患者さんの中にはいるようですが、細やかな気配りを忘れずに接していきたいと思っています」

ハードな勤務を乗り切るためには、仕事とプライベートを使い分けること。趣味のスノーボードやドライブをしたり、友人とお酒を楽しむことが明日への活力となっているようです。

「職場ではチームワークを第一に人間関係の潤滑油として頑張っています。これから、もっと男性の看護師が増えてくれるといいですね。看護師の仕事って、男性に向いていると思うんです」
看護師不足と言われる昨今、男性看護師を求め声はますます増えていくことでしょう。取材中、こちらの目を正面からしっかりと見て、受け答えをしてもらえる姿が印象的でした。



▲ホップdeジャンプ



▲ときめき鹿沼2008

10月4日(土)市民情報センターにおいて平成20年度男女共同参画社会づくり標語入賞作品(17点)が表彰されました。
最優秀賞(入栗野 金子一男さん)「共同参画
明るい暮らしの 渡し舟」
続いて、評論家・吉武輝子さんの「輝いて、男と女が生きるために」の講演会を行いました。
「人生100年の時代、人の役に立つ生き方をしよう。寿命ある限り伸びやかに、豊かに生きよう。病気になっても病人になるな。男も女も生活者としての生命の営みが自分でできる人は輝

ける」など共感できる話題と歯切れの良い語り口で聴衆を魅了しました。
ホップdeジャンプ
男女共同参画社会づくりリーダー育成を目的に、1月17日(土)市民情報センターにおいて「海外研修報告会」と「グッド・コミュニケーション」心を伝える会話を演題に栃木放送アナウンサー中山湖さんの講演会を行いました。
「上手な会話は相手の話をよく聴くことから始まる」を実践している中山先生の話し方指導もあり和やかな講演会となりました。

平成20年10月9日～10月15日
(アメリカ合衆国、シカゴ)

▶摩天楼発祥の地シカゴ



▲星野敦子・野澤こず恵・秋澤明美さん

今年度の次世代人材づくり事業には、鹿沼市から、青年リーダー部門に1人、女性リーダー部門に2人が参加しました。
この事業は海外研修を中心に、事前研修、事後研修を行います。大勢の講師から『男女共同参画』の知識を学ぶことができ、大変有意義なものでした。
シカゴの製薬会社では、男女の性別に関係なく『能力のある人材の確保』に力を注いでいました。そのためには働きやすい環境を整え『仕事と家庭のバランスを大切に』姿勢が見られました。
また、子ども博物館ではボランティアによる企画・運営がなされていたり、病院では患者の介助や受付代行業務を行ったり

と、ボランティア活動が日常化していることに驚きました。
さまざまなか点で、日本とアメリカとの意識の違いを実感しました。
また、この研修を通して多くの人たちと出会い『個人を尊重する』『心を通わせて一つのものを作る』大切さを学ぶことができました。今後も出会った仲間と情報交換を図りながら、地域づくりに努めていきたいと思っています。
まずは、会社と自宅の往復でしかなかった生活を一転させ、アメリカで感じたボランティア精神を見習い、鹿沼市の事業や奉仕活動などへも、積極的に参加していきたいと思っています。

お気に入り Book



「求めない」

加島 祥造 著
発行所 株式会社 小学館

人間は3つの欲を持って生まれてくるといわれます。ある程度の欲は生きていく上で必要かもしれませんが、上を見ればきりがありません。求めるために苦しみより「足るを知れ」ば身も心も楽になるのではないのでしょうか。

この「求めない」はどこからでも開いて読めます。そして、ページのどこかにあなたの心に残る言葉がきっと見つかるでしょう。

ひとくちメモ

カエル! ジャパン Change! JPN

「仕事と生活の調和」の実現に向けて、仕事のやり方を何かひとつ、今日から変えてみませんか? あなたの企業の「カエル! ジャパン」は何ですか?

- 例えば…
- ◎ 朝、To doリストを作ってみる
 - ◎ 会議はみんなで1時間と決めてみる
 - ◎ 明日の分の1時間を今日やってみる



・ 固定概念にとらわれているのもう古い!
チェレンジ! (黒ちゃん)
・ 「年だから」とあきらめない。常に前向きに生きたいと思います。(とんとん)
・ あせらず・ゆつくり・のんびりと…。見つけていきます、自分だけの夢。(めだか)
・ 私の夢は? 取材しながら自問自答。さあ、もう一花咲かせますか! (みかん)
・ そろそろ今年も桜の季節! 一年が何と早く過ぎるのか。でも毎年目標を決め明日への挑戦を目指している。(くに)